

ワーキングビューティのための新ファッション誌

マリソル

marisol

2007 NOVEMBER 780yen
http://marisol.shueisha.co.jp

別冊付録

川原亜矢子ほか、銀座通のワーキングビューティに聞いた

銀座&丸の内



必ず役立つ
ベスト・アドレス100

幸せオーラを放つ

「オードリー」スタイルに
惹かれる4つの理由

- 1 オンもオフも毎日
「上品ニット主義」
- 2 人気ショップの受注会No.1は
最上級の黒コート!
- 3 スタイリスト
戸野塚かおる厳選の「セミワイド」と「クロップト」

私たちが自信を持てる

新・美脚パンツ

話題の「ビューティ」から
洗練の「ロング」まで
今年顔ブーツ38

Ayako's Style in Nov.
特別な日は迷わず、スーツ

ブランド新・幸福論8
着るほどに愛着がわく服
「チヴィディーニ」

エルメスの新スカーフ
「カレ70」が彩る日常

「高機能クリーム」の
実力徹底検証

山本浩未の
35歳からの「もう一度
チーク」完璧レッスン

岩立マーシャの
真に豊かで
洗練の住まい in 韓国

ヘルス・ジャーナル
その症状、もしかして
「うつ」の始まり?

美しい風景に癒される安東の別荘



2 開放感あふれる別荘のメインスペース

●キッチン、ダイニング、茶室、スタディがワンルームになった広大なメインスペース。壁は漆喰のホワイト仕上げ ●建築上の規制から、コンパクトに設計されたキッチン。料理好きのマーシャさんは日本で無印良品の引き出しシステム棚を購入し、6つ連結してアイランドカウンターを作製 ●古材を再生したデスクとチェアはマーシャさんの友人でもあった家具デザイナー故・木村次郎作。壁に掛けられたミックスメディアアートはキム・クリムの作品 ●庭のすぐ前に洛東江、その奥には屏山という絶景のロケーション



3

4

「屏山は、川面に霞のかかる早朝から夕日で赤く染まる夕暮れまで、刻々と表情が変わり、見飽きません」。アルミのテーブルはご主人のデザイン。チェアはアルネ・ヤコブセンのセブンチェア

影響を受けたのはNYで出会った前述のアーティストたち」とマーシャさん。帰国後はアパレルメーカーで広告の仕事に携わり、ウォールなど数々のアーティストをモデルに起用し話題に。その後レストランの総合プロデュースへと活躍の場を広げていきました。「春秋」では、クリエイティブディレクターとして、メニュー開発から器選び、しつらえまでをプロデュース。照明器具のブランドを立ち上げ、海外向けの料理やインテリアの本のアートディレクション、執筆を行うなど活動は多岐にわたります。手がけた本はジェームズ・ピアード賞を受賞し、来年7冊目を出版予定。現在は、デザイナーや建築家をキャスティングし、新ブランドの家具プロデュースを進行中、と秀逸なセンスを多方面に発揮しています。14年前に韓国を代表するインテリアデザイナーと結婚。韓国に家を持ち、韓国と日本半々の多忙な生活の中、彼女がつかの間の休日を過ごす別荘へと向かいました。

ソウルから安東へ250km。マーシャさんの待つ安東の別荘へ

ソウルからハイウェイを東南に3時間ほど飛ばした先にある町、安東。ハイウェイを降りると、目の前には蛇行しながらゆたかりと流れる洛東江と緑あふれる懐かしい田園風景が広がります。曲がりくねった砂利道を進むと視界が急に開け、その景色の中に控えめにたたずむ黒くモダンな建物。「いらっしゃい！」マーシャさんの笑顔に迎えられる。門を入ると、すぐ目の前にはエメラルドグリーンの水をたたえた洛東江、その先には青々と緑を茂らせそびえる屏山。美しい川と山をひとりにじめしたような迫力ある景色に一同しばし呆然。まるでこの川と山を眺めるための特等席のような場所に、別荘は建てられています。

「時代の寵児」とはマーシャさんのような人のことをいうのだろうか。70年代、石原慎太郎、谷口吉生、川久保玲……今の日本の第一線で活躍するアーティスト、俳優、建築家たちが夜な夜な集っていた伝説のレストラン「バーSilver Spoon」。当時、パリから帰国したばかりのシェフ、熊谷喜八氏らとマーシャさんがこのレストラン・バーを立ち上げたのは、彼女がまだ20歳のころ。いうまでもなくこの店は大ヒット。またたく間にマーシャさんは店の、そして時代の寵児に。なのに3年後、あっさりこの店を人に譲りNYへ。NYの70年代といえば、アンディ・ウォーホル、バスビア、ジャズバー・ジョーンズといったアーティストが活躍していた黄金期。「私が人生で一番



岩立マーシャ
(有)MAREI (http://www.marei-td.com)
共同代表。東京、NYにてファッションブランドの広告を手がけたのち、「春秋」をはじめとする数々のレストランプロデュースに携わる。照明器具ブランド「HIZUKI」を設立し、クリエイティブディレクターとしても活躍。[Korea Style] [Japan Houses] など海外向けの本のアートディレクション、執筆も手がける多忙な日々。14年前に韓国のインテリアデザイン界の第一人者キム・チュン氏と結婚。以来、日本と韓国と半々の生活を送る。[Korea Style](Tuttle出版、4660円)はamazon.co.jpで購入可能

※ジェームズ・ピアード賞「料理本のオスカー」といわれる、アメリカ発世界各国の優れた料理本に対して贈られる栄誉ある賞

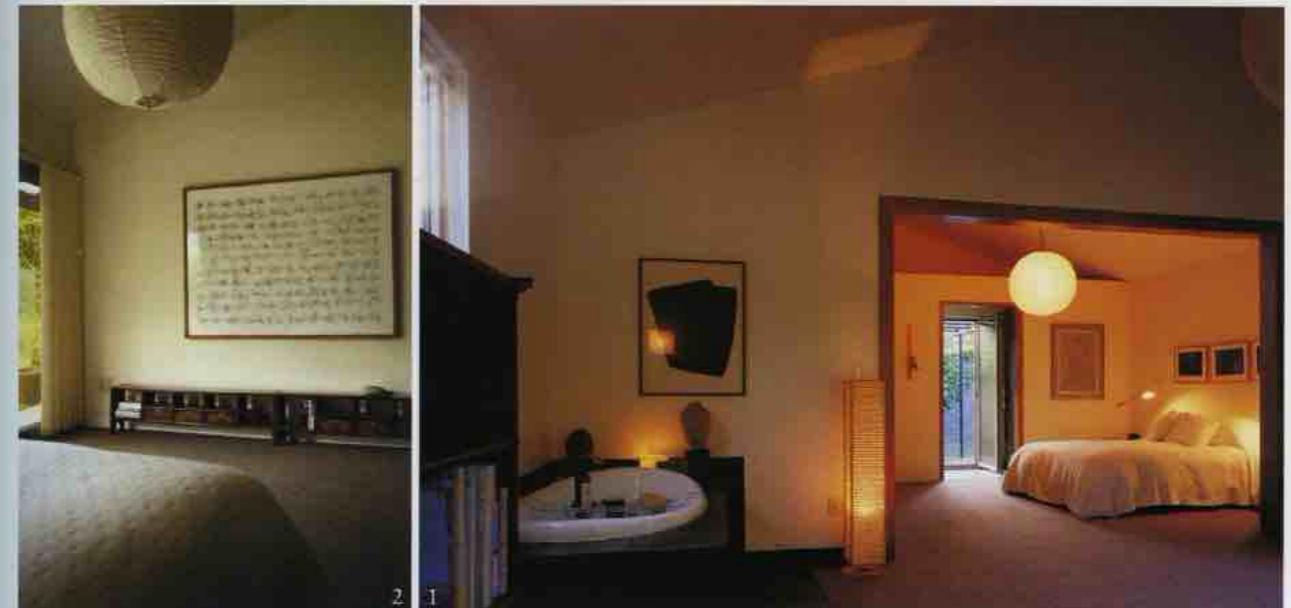
アンティークとアートで彩る別荘のインテリア



9 8



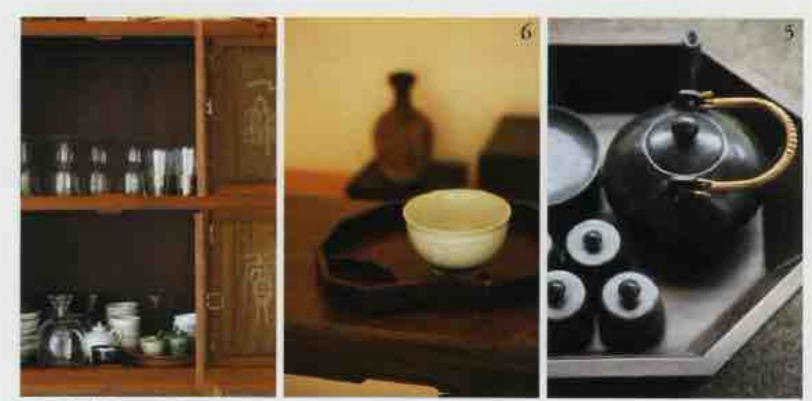
11 10



ご夫妻、ゲスト用のベッドルームはアートと家具で美しくしつらえて
 ●ご夫妻のプライベートスペース様。ベッドルーム手前の部屋の一面をスレート張りにし、オープンなバスルームに ●2つあるゲストルーム棟のうちのひとつ。壁にはご主人のお姉さまでもあるアーティスト、キム・ジャンヒの作品「Scribble」、下には1900年代のケヤキ材の低い書棚を2つ並べて ●もうひとつのゲストルーム。ベッドサイドに置いたアンティークの朱塗りのチェストの上には、NYで購入したアールデコ時代のランプを合わせ、壁には韓国のランドスケープフォトグラファー、ジュー・ミョンダックの作品を ●バスタブの上にはジョエル・シャピロの木版、手前の仏像はマーシャさんが24歳のころに購入した中国のアンティーク。竹を編んだ照明は自身が手がけるブランド「HIZUKI」のもの

広々とした白いLDKに配されたアンティークの家具や小物

広大なLDKの各所にアンティークの家具や小物を配し、シンプルかつモダンな空間に趣と温かみを加えています。●茶室棟のしつらえ。李朝後期に作られたケヤキ材の金庫の上には李朝の青磁の一輪挿し。上の書はご主人のお父さまによるもの ●扉が可動式になった伝統的なデザインの本棚はご主人によるリプロダクション。扉に書かれたのはご主人のお父さまの書。マーシャさんは食器棚として使用しています。上にはモロッコや日本で購入したカゴを ●李朝の洋服箱飾。本来は木製の骨組みに韓紙が張ってありますが、マーシャさんはあえて韓紙をはがして使用。「麻を張って中に照明を入れて飾っても美しいですよ」。中にラッセルライトのアルミの鏡などがさりげなく置かれて ●新羅時代の仏像は、故・木村次郎作の台座に



●お膳と茶器はご主人のデザイン ●茶室には李朝時代の井戸茶碗や高麗時代の壺が飾られています ●食器棚の中には、アマンホテルで購入した調味料入れや日本から持ってきたガラスの器などが

「今から10年前に主人と初めて屏山書院を訪れ、このすばらしい景色にひと目惚れ。「ここに住みたい！」って叫んだの。その後、私の誕生日に主人からこの別荘をサプライズプレゼント。とてもうれしかったのと、私も一緒に造りたかった」という複雑な気持ちでした。文化財保護地区であるこの地にマーシャさんに内緒で別荘を建てるためご主人は大奮闘。設計ももちろんご主人。この家は、1200坪の広大な敷地に、LDKのあるメインスペース棟、ご夫妻用のプライベートスペース棟、ゲストルーム棟が2つの延べ100坪近い4つの独立した棟で構成されています。

アンティークコレクションが絶妙なバランスで置かれた室内

モダンでシンプルな内装の各部屋には世界各国で集めた家具や小物、アートが実にセンスよく配されています。出会う以前からお互いが持っていたそれらが見事に調和しているさまに、ご夫婦共通の美意識が感じられます。「骨董や旅先で出会ったものは、出合いのエピソードや持ち帰る時の苦労話(笑)とともに大切な思い出。もちろん失敗も多々、でもそれも経験です」。モダンな空間にモダンな家具を合わせる。一見、美しくまとまってはいるけれども、どこかよそよそしく感じられることも。古い家具や旅先で出会った小物を置くと、空間に奥行きと深みが変わり、訪れる人をぐっと懐に引き寄せる魅力が感じられます。さらにモダンアートを合わせることで、絶妙なさじかげんの洗練味が生まれています。

絶景を望むテラスでの食事が別荘の醍醐味です

別荘では朝も夜もテラスで食事。おいしい空気が一番のごちそう

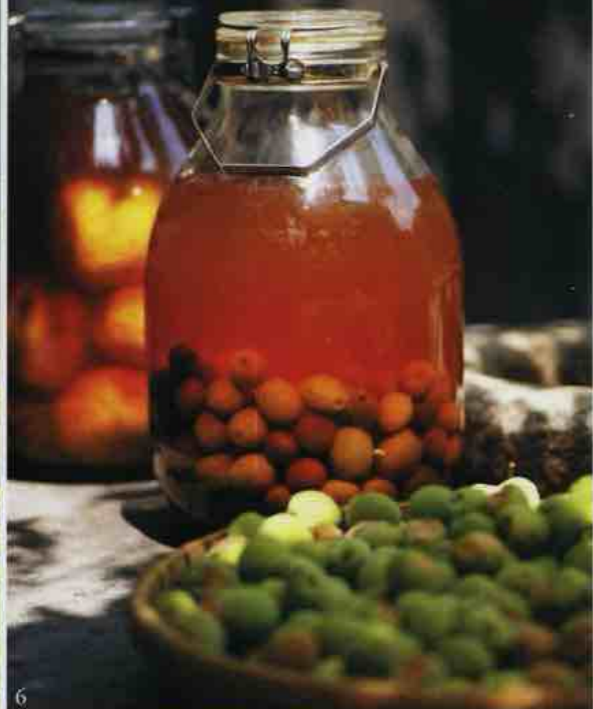
●「ハーブをいろいろ植えてみたのですが、安東の冬の寒さに耐えられるのはミントだけ」。庭で摘んだミントでカクテル、モヒートをお供。●アペリティフのお供。ナッツ類を入れたシルバーの織の黒い器はモロッコのアマンジエナ、オリーブを入れたガラスの器はコンランで購入。チーズをのせたお皿は済州島の古民具 ●スレート張りのテラスに藤棚が心地よい木陰をつくっています。ともに日輪を往復する愛犬・汗ちゃんも別荘ではのびのび。「珍鳥犬の彼は、ここに来ると野生の本能が呼び覚まされるみたい」



●ロフトには畳敷いた和室があり、その窓からは屏山書院方面が一望できます。入口には韓国のアンティークの美しい障子をつけて ●撮影のために、自ら庭の芝を刈ってくださったマーシャさん。1200坪の敷地は水やりも大仕事です

自然に囲まれた豊かな時間が多忙な日々のエネルギー源

●「昨日、甥っ子が庭の梅の実を収穫してくれたばかり」とテラスにはザルいっぱいの梅が干してありました。梅酒と梅茶を手ぎわよく作り、地下の保存庫へ。梅酒やカリン酒は毎年作り、親しい人にさしあげたりもしているそう ●睡蓮の花が咲き、金魚が泳ぐこの池は、当初、お風呂好きのご主人が露天風呂として作ったもの。冬は凍ってしまいますが、金魚はちゃんと越冬するそう ●庭の一面には大小さまざまな石臼をグラフィカルに敷き詰めて。壺(ハガリ)は味噌やキムチを入れるもの ●池にはカエルの親子も積み置き。夜は懐かしい合唱が



「私、グリーンサム(植物を育てる名人)なの。植物を枯らしたことがないのよ」。日本と韓国を往復し、多忙を極めるビジネスウーマンは、筋金入りのガーデナーでもあります。「ガーデニングは大好き。別荘に長期間来られない時は、庭の植物や芝のことが心配で心配で。ここに来ると、顔中真っ白に日焼け止めを塗って(笑)、朝から芝刈り機を回したり、草取りをしたり、一日中庭にいます。ガーデニングが楽しくて帰りにたくなくなってしまうのが悩み」と笑うマーシャさん。韓国の植物は日本とほぼ同じ、その土地に自生する植物を好み、丹精こめて手入れしている庭。まわりの景色をじゃますることなく、景色につながるようデザインされ、「主人は庭木一本を植える場所にもこだわり、植えては「ここじゃない」と移動している(笑)」そう。かくいうマーシャさんも「今、一番欲しいものは優秀なエンジンつき芝刈り機」と負けず劣らずの入れ込みようです。

とりたての野菜やハーブを料理。豊かな暮らしとはこういうこと

庭に植えた梅やりんご、カリンなど果物の木もすくすくと育ち、収穫した実を、果実酒や、黒糖漬けのフルーツティーにするのも楽しみのひとつ。ここ安東は、スイカやりんご、ぶどうなどの果物や安東牛と食べ物がおいしいことでも有名。「ご近所のおばあちゃんの手作りの野菜やこま油も本当においしいのよ」。仕事から世界中を食歩き、料理の腕も玄人並みのマーシャさんは、ご主人のゴルフ仲間や日本からの友人たち

を招いては新鮮な食材を使って、料理の腕をふるうそう。

「さあ早く食べて食べて」ととりたてのトマトとパジルを使った Pasta やタコのマリネなど、テーブルには手ぎわよく作られた料理が並びます。「キッチンが小さいから、大したもののは作れないけれど、人をおもてなしするのは大好きなので」。なんととっても一番のごちそうは、この景色と空気が、そして虫の音しか聞こえない静けさ。こぼれるような星空の下、キャンドルを灯し、マーシャさんのおいしい手料理に舌鼓を打ちながら、語らう夜。訪れる人々はこのすばらしい安東の夜に酔いしれ、癒されます。マーシャさんにとっては、東京からも、ソウルからも離れたこの安東で、庭の草花と対話し、美しい風景とふれあうことが、多忙な日常から自分を取り戻すかけがえのない時間です。

韓国の古きよき面影を残す美しい町、安東

韓国内東部、慶尚北道の北部に位置する安東市。韓国儒教の故郷としても知られ、屏山書院ほか、有形無形の文化遺産が数多く残るこの町には、古きよき韓国の面影を求め、海外からの観光客も多く訪れます。洛東江の流れに沿ってたたずむ河回村には、李朝時代の両班が住んだ民家や農家がそのまま保存されており、民俗村として観光客にも開放されています。



豊かな田園風景の向こうは河回村の茅葺き屋根の家々

独自の美意識が凝縮されたソウルの家



家具の合わせ方や小物の飾り方にセンスが

●天井高6mのこの開放感/メインリビングとして使われているスペース。床は御影石、白い壁の一部にはパイン材が張られています。手前にあるグレーの革張りのソファは、長年愛用しているB&B社のもの。背もたれを回転させるとこのような形になります ●お気に入りのソファでリラックス。本を読んだり、音楽を聴いたりする至福の時間です ●紀元前近くのものと思われる、馬をかたどった土偶は副葬品。奥のグリーンを揃えているのは韓国の古い火鉢 ●餅菓子などを盛った韓国のアンティークの餅台に屋久島で拾い集めた珊瑚が飾ってありました。こんなアイデアならまねできそう



●マーシャさんが住む平倉洞は緑多い山に位置し、ソウルで一番面積の広い町。「車がないと生活できないし、雪が降ったり、地面が凍ったりすると大変ですが、私たちは古くからのこの住宅街が大好きです」 ●窓辺には、中国で購入したコレクションの鳥かごを並べて

14世紀に風水によって建設された都市、ソウル。貴族や宮廷の高官、つまり両班が多く暮らした北山と並び、「気」が強い吉なる場所として、古くからアーティストや作家、大学教授など文化人が多く住む平倉洞。高台にある高級住宅地、日本でいうと、菅野・御影あたりのようなこの地域は、近年ギャラリなども増えています。マーシャさんのソウルの家は、日当たりも見晴らしもよいこの平倉洞の傾斜地にご主人が設計した集合住宅の最下階にあり、半地下と地上2階の3フロアで構成されています。ソウルの冬はマイナス10℃近くまで気温が下がり、真夏は35℃近くと気温差が激しい。そのためRC造の壁は、厚さ60cmの2層構造になり、間に空気層と断熱材が入っています。サッシは気密性の高いドイツ製シュッコ社のペアガラスを使用し、御影石の床にはオンドルの床暖房。この天井高で「真冬でも半袖で過ごせるほど、寒さに対する備えは万全、冬は暖かく夏は涼しく、実に快適です」。

この家は4軒目。前の家もすべて同じ平倉洞にある主人が設計した家でした。新しい家に引っ越すと、まず主人が家具を決め、私が小物やアートを合わせていきます。家具や小物は倉庫に置いてあり、引っ越すたびにその家に合わせて選んでいます。そんな中、変わらないもののひとつがソファ。「いろいろ使った結果、白いキャンパス地のものが一番心地よいですね。汚れたら洗ったり張り替えたりできるし、なによりもほかの家具やアートが映える。洗いざらしのコットンの白シャツみたいな感覚だと思います」。そういえば別荘も自宅も、ベッドリネンやタオルはすべて白。「きれいな色にも惹かれるのですが、漂白できるのが大前提で白になってしまおう」。そう。マーシャさんのきれいな好き、掃除好きは相当なもの。「東急ハンズの掃除用品売場が大好き(笑)。人に頼んでも結局自分でやり直すことになるから」と多忙な中、別荘も自宅もすべて自分の手でピカピカに磨き上げるといふ徹底ぶりです。



白ソファに家具や小物が映えて

布張りの白いソファは、韓国でオーダーしたもの。クッションはイームズのスマールドット。ソファ前のテーブルは、餅をこねたりするアンティークの台だったものを、3層に切ってつなげ、脚をつけただか。ご主人によるデザインで素材はパイン材。アメリカで購入したお面は故・木村次郎作の台座に

ソウルのインテリアは究極のミックススタイル



●夏用のもうひとつのリビングダイニング。ソファは象の鞍にのせて使用するものでタイ製。テーブルはご主人のお父さまが書を書くために使用していた机で、40年代ごろのもの。天井と壁の一部が竹張りで涼やかです ●L Dの間の茶室はゲストルームとして



●地下はバスタブと板敷浴（チムジルバン）のあるスパルーム。窓辺にはタイ製の寝仏像、ブライアン・クラークのアートも ●3階のベッドルームは天井が低いので、床暖房入りの床にじかにマットレスを敷いてベッドに。リネンは白で統一



モダンアートとアンティーク家具の絶妙な取り合わせでコーナーづくり

●ジャスパー・ジョーンズ本人からもらったアートの下は19世紀の李朝の葉草画 ●アルデコ時代の黒革のソファの上には彫刻家ジョエル・シャピロの木版を ●西洋の船用トランクを模した李朝後期のトランクとテリー・ウィンターズのリトグラフ ●バス&ドレッシングルームのアンティーク屏風の壁には大竹伸明のカラージュ

「この家では金庫や船用のトランクにも、アイアンの脚をつけて、よりモダンで軽やかにしました」。古くからオンドルが普及していた韓国では、床暖房の熱から守るため、簞笥や卓子など脚付きの家具が多く見られます。李朝家具が現代のモダンな空間にも合わせやすいのはそんな理由も。「昨年私が手がけた本『Korea Style』では、韓国の骨董がいかにモダンな建築に合うか、韓国人がいかに上手に骨董を現代のインテリアに取り入れているかを世界中の人に知ってほしかったのです」。手作りではないに作られた骨董家具のぬくもりや、木目の美しさ、金具のモダンさが好きというマーシャさん。骨董、モダンアート、アルデコやイタリアンモダンの家具と国籍、年代、スタイルを超越して美しくコーディネートされた究極のミックススタイルです。

家も家具も機能ありき。素材も大切なポイントのひとつ

「私にとって家や家具はコルビュジエの言葉どおり、住むための機械。こんな空間でお茶を飲み、食事をし、本を読む……と自分のライフスタイルのシーンを想像し、それぞれのシーンでの心地よさと機能性を満たすことがまず第一です」。家はあくまで生活の場、デザインばかりが先行したら、決してリラックスはできません。「家具は座り心地や使い勝手がよく、用途を満たしているか、デザインが美しく、素材と無理なく共存しているかどうかポイントです。一番気になるのは素材。木、皮、布などの自然素材の美しさ、月日を経て使い込んでいく過程すら美しい、経年変化を楽しめる素材であることが重要」。お気に入りの家具でくつろぐ時は、もっぱら読書やDVD観賞。映画の記憶から、住空間やしつらえのヒントを得ることも多いそうです。

生活すべてを思いきり楽しむ、それがマーシャさん流

「20代のころ、私もエルメスのバッグやロレックスの時計に憧れ、酔った勢いで後先考えずに買ってしまった経験があります(笑)。でもロレックスのゴールドの時計は、何十年と毎日肌身離さず、家事やガーデニングの時も、温泉にもつけたまま入っていますがビクともしないし、エルメスは仕事帰りに買った大根まで入れて持ち歩き(笑)、相当使い込んでいますが全然へこたれませぬ。家具も同じで、名作といわれる家具は、長く使い込んでいくうちに、そのものの本当の価値、美しさ、機能性がわかってくるものです。私自身もコルビュジエのソファLC2やB&Bのソファ、ヤコブセンのソファブランチアなどを長年愛用していますが、使うほどにそのよさが実感できる。皆さんも吟味して、少しずついい家具をそろえていくことをおすすめします」

NYでの出会いが
マーシャさんに教えてくれたこと

「今でもいろいろなカフェで、カトラリーをカゴに入れて出しているけど、あれを最初にやったのは私。『Silver Spoon』オープン時は予算がなかったから、カトラリー類もみんなが持ってきた寄せ集め。それをなんとかかっこよく見せるための苦肉のアイデアだったよ(笑)」とさらり。天性のセンスのよさとはこういうものだと思われられます。

そんなマーシャさんにも憧れた人が。それは、NY時代に親交のあったモダンアートの巨匠ジャスパール・ジョーンズ。『ジャス

パーは料理上手でよく食事に招いてくれました。彼が使っていたのを見て、憧れて購入したウェッジウッドのホワイトチャイナやクリストフルのカトラリーは今でも愛用しています。日本で人間国宝の作家の皿を買ってきたとか、北海道で見た黒ユリの花が庭に欲しいとか(笑)。とにかく美意識が高く食欲な人。彼の住んでいたNYの家やファイリッパ・ジョンソンのグラス・ハウスはとても印象的でしたね」。

仕事はもちろん、生活そのものを食欲に楽しむ。好きなものに囲まれ、自分らしくしつらえ、愛情こめておいしい料理を作り、人をもてなす。70年代にNYで出会ったアーティストたちの姿は、マーシャさんのその後の人生に多大な影響を与えました。天性のセンスに加え、彼らとの出会い、そして世界中を旅し、一流のものを見て味わった経験が、今のマーシャさんをつくり上げています。骨董からアート、家具、器、食べ物まで、さらりと語るその知識の豊富さには驚くばかり。骨董にモダンなものをさりげなく合わせるような上級なミックススタイル術、さっと即興で作る料理のおいしさ。その洗練されたセンスはとて一朝夕では身につかないけれど、料理も掃除も庭仕事も人まかせにせず生活すべてを思いきり楽しむ、隅々にまで美意識を行き渡らせるその姿勢はまねできるはず。真に贅沢で豊かな暮らしとは、モノでもお金でもなく生活を楽しむ心がけしだい、私たちの手の届くところにあるのだと、マーシャさんの韓国での暮らしが教えてくれました。



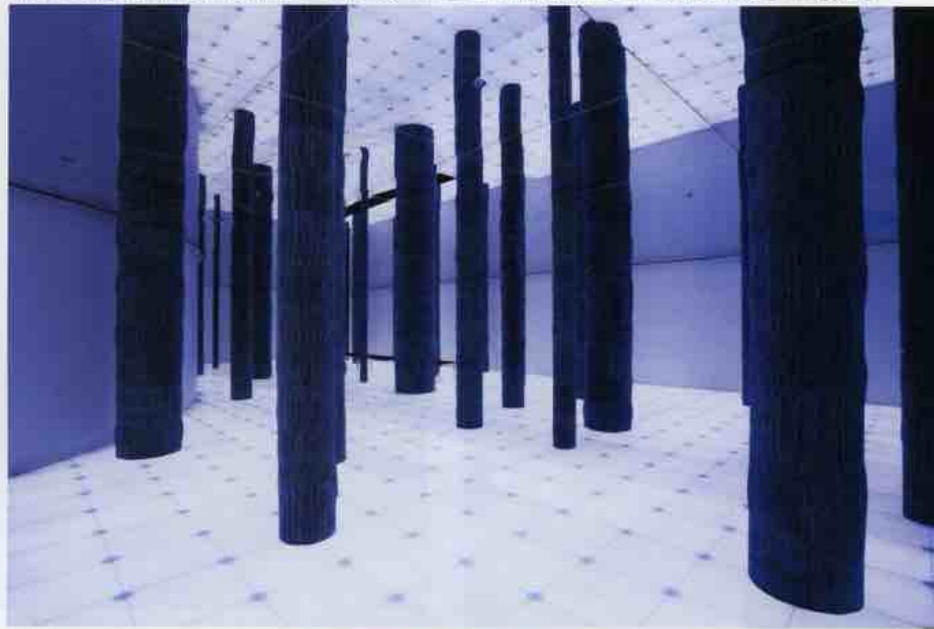
日韓の器を合わせてセッティング
●脚影石の床の上で気持ちよさそうな汗ちゃん。韓国は石の文化。冬はオンドルで暖かく、夏はひんやり。石の床は理にかなっています。スチームクリーナーで掃除すると驚くほど汚れが落ちるとか ●ダイニングテーブルはジョージ・ナカシマの家具で有名な桜製作所のもの。右側の壁に掛けられた大きなアートは、ジャスパール・ジョーンズ ●マーシャさん特製の松の実粥、スユク(ゆで牛)、ナムルなどが並んだテーブル。とても美味でした



センスが光るしつらえ

●おもてなしのテーブルセッティング。青磁の片口とぐいのみは藤井憲之作。白磁の茶碗はソウルで古民家を再現しているアルムジギ文化財団内で購入 ●リビングでサイドテーブル代わりに使用している壁盤。床産の文化が生み出した食事をするためのお膳で写真は李朝時代の虎足盤 ●壁盤の上は16~17世紀、李朝後期に使われた筆入れ。モダンなハート形のトレイと一緒に置かれているところにセンスを感じます ●お茶のセッティング。美しいボジャギの上に淡谷の「inTouch」で購入した京都の黒松材の銘々皿、その上に韓国のお菓子とお茶を

木に見立てた柱は、韓国の村の入口に立っている守り神としての木彫りが発想の源。天井の鏡に映り込んで幻想的



Maison Hermès Dosan Park

メゾンエルメス・ドサンパーク

ミュージアム、カフェ、コンサートと魅力満載

06年11月にオープンした「メゾンエルメス・ドサンパーク」は、緑あふれる島山公園近く、おしゃれなブティックと高級住宅街が共存する新沙洞にあります。ガラスで覆われた軽やかな建物は、世界中のエルメスブティックの内装を手がけるレナ・デユマ女史が中心になりデザイン。地下1階には、「CAFÉ MADANG(庭)」というカフェと「PROMENADE」というミュージアムが。「PROMENADE」はヴィウラートという革で巻かれた柱が林立し、まるで森のよう。柱の中には、代々のエルメスのオーナーが世界各国を旅して集めたコレクションが展示されています。「ミュージアムやストリートコンサートとショッピング以外でも楽しめますよ。」

3階の「ATELIER HERMÈS」では、エルメスが独自に選ぶ新進気鋭の若手アーティストによる作品を随時展示しています



エミール・エルメスが集めた収蔵品はデザイナーや職人の創造力を刺激します。屋上にはスカーフを持つ花火師が



ワインなどさまざまなものに対応する「キャンバスバッグ」(大) W 670000・(小) W 490000、「グラス」(大) W 336000・(小) W 308000。東洋の御膳を想定したというガラスの外壁が美しい

DATA

ソウル市江南区新沙洞630-28
☎02-542-6622
11:00~20:00 無休

Lock Museum

ロックミュージアム

圧巻の鍵コレクションは一見の価値あり

韓国で活躍する建築家金物のデザイナー、チェ・ホンギョさんが、自身のコレクションを公開するべく、02年にオープン。20歳のころから30年にわたるコレクションは、鍵だけで4000点にも及び、ほかに土器や箱物なども。韓国をはじめ、アジア各国で集めた鍵は、遊び心にあふれたデザインで実用性はもちろん、呪術的な意味もあり、科学的に証明できない不思議な仕掛けのものもあるとか。魚、亀、動物、花、蝶とモチーフもさまざま。素材も木製から王室の婚嫁家具用の金までとバリエーションの豊富さに目を見張ります。「チェさんは滅びつつある鍛鉄の学校まで主宰されています。新羅の土器の飾り方なんかおっしゃれですよ」とマーシャさん。



世界的に有名な韓国人建築家による設計。外壁はボルトを打たずに鉄板が張られた目を引くデザイン

DATA

ソウル市鍾路区東崇洞187-8 4F
☎02-766-6494
10:00~18:00 月曜休
http://www.lockmuseum.org



(右) 家具についていたドラム式錠。銅などの金属製で形もさまざま (左上) 米を入れるパンダジ用の魚の形の錠。目を開けて寝る習性と水の中で生きることから「ずっと守ってほしい、火災予防」などの意味が (左下) 伽耶・新羅時代の器のコレクションは展示の仕方もおしゃれ



1910年以降の韓国美術が展示されているMUSEUM2。別階にはマーク・ロスコ、ジャコメッティ、サイ・トンプリーなど48年以降の世界のモダンアートが展示されています。●高麗・朝鮮王朝時代の陶磁器が展示されているMUSEUM1の4階。白磁、青磁のコレクションは圧巻です ●レム・コールハースによる児童文化センター前のデッキにもアートの数々。ルイス・ブルジュアの「Spider」は、ほかに六本木ヒルズなど世界に6つしかないとか

Leeum Samsung Museum of Art

サムスン美術館リウム

モダンアートと伝統美術が同時に鑑賞できます



サムスン児童文化センターでは、注目されているアーティストの企画展が定期的に開催されています。過去には、アンディ・ウォーホル展や昨年亡くなったナムジュン・ハイクの追悼展などを開催。ウッドデッキに照明が埋め込まれたメインエントランス

南山のふもとに04年にオープンしたサムスン美術館リウム。サムスンの文化財団が運営するこの美術館は1万5000点に及ぶコレクションを有す、ソウルの新名所。「過去・現在・未来」の芸術文化の調和をテーマに、世界的に活躍中の3人の建築家によって設計された3つの建物で構成されています。先史から朝鮮王朝時代までの陶磁器、書画など伝統美術品を展示するMUSEUM1は、マリオ・ボッタ。韓国と世界のモダンアートを展示するMUSEUM2はジャン・ヌーベル。企画展も開催しているサムスン児童文化センターはレム・コールハースによる設計。「特徴ある3つの建物と、モダンアート、陶磁器のすばらしいコレクションは必見です」とマーシャさん。



マリオ・ボッタによるMUSEUM1の外壁はテラコッタレンガ張り ↓内部のらせん階段は天窓からの光が射し込む印象的な空間

DATA

ソウル市龍山区漢南洞140-893
☎02-2014-6900
10:30~18:00 (木曜のみ~21:00) 月曜休
http://www.leeum.org

マーシャさんおすすめのソウルスポット



COFFEE TO GO

コーヒー・ティー

街歩きに疲れたら、器や雑貨も見られるこのカフェへ

古い町並みにギョラリリやアンティークショップが並ぶ青洞。プロパンガス店だった店家を改装し、05年にオープンしたこのカフェは「オーナーの趣味が詰まってもいいの」とマーシャさんもお気に入り。カフェの家具は、ジャンブルーヴェやヤコブセンと名作ぞろい。韓国家家の器やオリジナルのトレイなども購入できます。早朝から深夜までオープンしているので、ショッピングに疲れたらぜひ立ち寄って。

お茶以外に朝食、ランチメニューもあり、夜も軽食がいただけます。小さな庭に面したテラス席も心地よい。年に一度、オーナーが海外で買ってくる北欧のアンティークなども。姉妹店「SEOM&TUUS」が江南に



DATA

ソウル市鍾路区青洞32-21
☎02-720-5001
7:00~23:00(日曜・休日10:00~22:00)
無休



日本に留学経験もあるJang Jinの器。(手前から)白鉢W80000、カップ&ソーサーW200000、ポットW600000など

ジャズ、ワイン、モルトウイスキーが楽しめる大人の空間「ザ・ライブラリー」



THE Shilla Seoul

ソウル新羅ホテル

ゲストの要求を満たすライフスタイルホテル



↑南山の美しい景色を見ながら、バリエーション豊富なブッフェが楽しめる「ザ・パークビュー」・オートム・クルーズ、マリア・シャラボワとVIPも御用達

DATA

ソウル市中区英忠洞2街202番地
☎02-2233-3131 ☎02-2233-5073
日本での予約先/ホテル新羅東京支店
☎03-3586-7571 ☎03-3586-7360
465室 1泊W340000~(税・サ別)
<http://www.shilla.net>

2年の歳月をかけ、07年5月にリニューアルした新羅ホテル。世界的なインテリアダサイナー、ピーター・リミテウスが手がけたロビー、ラウンジ&バーの「ザ・ライブラリー」、オープンキッチン

形式のブッフエレストラン「ザ・パークビュー」は韓国の伝統とモダンさが見事調和し、マーシャさんも大注目。品格あるラグジュアリーなインテリアダサービスは世界のVIPにも愛されています。

GRAND HYATT SEOUL

グランドハイアットソウル

待望のスパオープンでさらにパワーアップ

来年で30年を迎えるソウルの老舗ホテル。ソウルの街を一望できる好立地と、充実した施設で相変わらず人気です。マーシャさんは1階の「THE DELI」にパンやワインを買いにくるとか。ケーキ、クッキー、パンやソーセージはすべてホームメイド。07年4月にオープンしたスパは、ガーデニングがコンセプトの空間で、天然植物成分100%の化粧品を使い、ハンドマッサージによる施術を受けます。



ホテル内にレストラン&バーは12あり、うち眺めのよさを生かした屋外レストランは4つあります。写真は「ロビーラウンジ」の屋外席。映画のロケにも使われたとか

DATA

ソウル市龍山区漢南2洞747-7
☎02-797-1234 ☎02-798-6953
601室 1泊W180000~(税・サ別)
<http://www.grandhyattseoul.co.kr/japan>

→(上)「THE DELI」の人気はワイン。今、韓国はワインブームだとか。世界中のワインが比較的リーズナブルな価格で入手可。(下)「THE SPA」のゴージャスなトリートメントルーム。91年にジョン・モーフードによりリノベーションされたロビーは天井高10m

